

○8番（平山晶邦議員） 8番平山晶邦です。通告に従いまして、一般質問を行います。

東京などへ行きますと、人の多さと活力に圧倒されます。東京を中心とした首都圏と地方との格差をしみじみ考えさせられます。日本経済は東証一部企業の利益が最高益を出しているそうであり、大企業の内部留保は約400兆円になり、株価も2万2,000円台を維持して景気はよいとされています。

しかし、地方経済と実体経済との乖離は以前より進んでいるように感じます。重厚長大産業からイノベーション産業への業態変化は、私たちの想像を超えるスピードで進んでいると思います。このようなスピード感ある社会環境の中で、私たちの住む常陸太田市がこれからも持続可能な町であるためには、どのようにしていかねばならないのかと私自身深く考えさせられています。

以上のことを申し上げ一般質問に入ります。

私は9月議会でも申し上げましたように、本市の子育て支援策を評価しております。また、一方で、町が持つ地域力を上げることも必要であると申し上げました。地域力を理解するには近隣においても、なぜ那珂市は5万3,000人を超える人口を維持できているのか。東海村は年々人口が増加して3万8,000人に近い人口になったのかをただ地政学上の有利さだけではないと思います。地域力を知る上で、これらの近隣の状況を研究、分析することも大切なことではないかと考えます。

本年7月に私の上利員町の同窓生が仕事をリタイアしたことを契機にご夫婦で東京多摩市に越していきました。家も田んぼもある長男でしたが、ご家族の事情はあるかもしれませんが、彼がまだ元気なうちに新たな地で生活していきたいとしたわけです。引っ越す1週間前に聞いたときには、私自身びっくりし、よく決断できたなという思いを持ちました。そのとき話を聞き、地域力がなくては、高齢者さえこの地に引きとめられないのではないかと考えました。

そこで、第1の質問として、少子化・人口減少対策について質問をいたします。

平成24年から「子育て上手常陸太田市」のPRを開始して、各種支援策を実施、平成27年には少子化・人口減少対策アクションプランを策定して、一層の事業支援を拡大して現在に至っています。

市長のご挨拶などにもあるように、人口の社会動態もよい方向に向いています。しかし、市民の方々からは「子育て支援施策は旧常陸太田地区だけではないか」とか、「金砂郷・水府・里美と太田とは地区別の格差がある」とか、「現在住んでいる市民のための施策も大切ではないか」「生活道路の整備などの利便性を高めることが定住促進につながるのではないか」という話をよく聞きます。まだまだ少子化・人口減少対策アクションプランを市民と共有している状況ではないとの思いを持ちました。本当の意味で市民と共有することが大切ではないかと思えます。

そこで、1点目として、少子化・人口減少対策を行って以来の実績についてお伺いをいたします。

次に、2点目として、今までにどのくらいの予算をかけてきているのかについてお伺いをいたします。

3点目として、多くの事業を進める上での課題はどのように考えているのかについてお伺いを

いたします。

以上が第1の質問です。

第2の質問として、第3セクターの経営について質問をいたします。

私は平成28年の3月、6月、9月議会一般質問で、株式会社水府振興公社、一般財団法人里美ふるさと振興公社の経営を中心に市が出資している第3セクターの経営問題を質問してまいりました。縦割りの中で、市が経営の総括管理ができていないことが問題であると指摘をいたしました。現在は、市組織の中で、総務課に経営の一元管理するべく担当を配置して、第3セクターの経営状況が把握できるようになっていると思います。

本市の第3セクターは、道の駅ひたちおおたを運営する常陸太田産業振興株式会社、竜神大吊橋などを管理する株式会社水府振興公社、プラトーさとみなどを管理する一般財団法人里美ふるさと振興公社があります。総括管理をできるような仕組みになってからの経営改善や事業改善がどのように進捗しているのかを伺いたいのであります。

そこで、1点目として、本年9月末までの上半期の第3セクターの経営状況をお伺いをいたします。

2点目として、市と第3セクターとの経営協議はどのような仕組みで行っているのかをお伺いをいたします。

3点目として、下期に向かっての各団体の課題と取り組み状況についてお伺いをいたします。

以上で私の1回目の質問といたします。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。政策企画部長。

〔綿引誠二政策企画部長 登壇〕

○綿引誠二政策企画部長 少子化・人口減少対策についてのご質問にお答えいたします。

本市におきましては、いち早く少子化・人口減少の状況に危機感を抱きまして、その対策に当たりまして平成21年度に庁内プロジェクトを立ち上げまして、翌平成22年度から多くの施策を実施しております。施策の主なものを申し上げますと、平成22年度から結婚相談センター「YOU愛ネット」を設置し、市内での結婚を推進するとともに、新婚家庭家賃助成事業を開始いたしまして、新婚世帯の経済的支援及び本市への転入を促し、さらには平成25年度からは住宅取得促進助成事業を実施いたしまして、子育て世代の本市への定住を促しているところでございます。なお、こうした施策を広く資するため、「子育て上手常陸太田」をキャッチフレーズとするPR事業など展開しているところでございます。

このように、本市では他市に先駆けまして少子化対策に取り組んでまいりましたが、さらに平成27年度には少子化・人口減少対策アクションプランを策定いたしまして、目標値を定めて全ての施策を総合的にかつ計画的に進めることとしておりまして、新たに子どもの夜間診療などを始め、切れ目のない子育て支援対策に取り組んでいるところでございます。

主な施策の事業開始年度から本年10月までの実績について申し上げますと、結婚相談センター「YOU愛ネット」事業においては、平成22年度の設置以来、現在までに116組が成婚に至っております。新婚家庭家賃助成事業につきましては、平成22年度から現在までに544

件の申請がございまして、対象となりました世帯人数、1,188人のうち575人の方々が市外から転入している状況にございます。住宅取得促進助成事業につきましては、平成25年度から現在までに515件の申請がございまして、対象となりました世帯人数1,911人のうち689人の方々が市外から転入している状況にございます。

また、PR事業といたしましては、これらの施策を掲載いたしました「子育て上手常陸太田」のポスターやパンフレットの作成のほか、JR常磐線特急列車内での電光掲示板、さらにはJR水戸駅構内のアドビジョンなどを活用しまして、広く周知に努めているところでございます。

続きまして、今までどのくらいの予算をかけてきているのかというご質問にお答えいたします。

ただいま申し上げました事業ごとに決算額で申し上げますと、結婚推進事業につきましては、YOU愛ネットの件費や交流会などの開催経費などを含めまして、平成28年度までの7年間で3,606万3,000円。新婚家庭家賃助成事業につきましては、平成28年度までの7年間の助成額の合計は2億2,966万9,000円。住宅取得促進助成事業につきましては、平成25年度から平成28年度までの4年間で8,570万円を助成しているところでございます。PR事業につきましては、平成28年度以降は広報戦略事業といたしまして、観光等も含めた広報も行っておりますが、平成24年度から平成28年度までの5年間の合計額は909万5,000円となっております。

これらの事業の総額を申し上げますと、約3億6,000万円となっております。このうち新婚家庭家賃助成事業と住宅取得促進助成事業につきましては、財源といたしまして、国の社会資本整備総合交付金を活用しております。全体の3分の1に当たります約1億2,000万円を充当しているところでございます。

これらの施策の成果を少子化・人口減少対策アクションプランで設定いたしました人口目標値で見ますと、平成28年4月1日現在では、目標値を5万1,650人と定めまして、これに対し5万1,823人で173人上回っておりますが、平成29年4月1日現在では、目標値5万1,050人に対しまして、5万1,000人ちょうどで50人下回っている状況にございます。

当市は高齢化率が高く、自然動態による人口減少が進んでおりますが、社会動態を見てみますと、昨年の4月から10月までの転入者543人に対し転出者は735人で、192人の転出超過でございましたが、本年度は転入者が現在のところ610人、転出者は665人で昨年同時期と比較いたしまして、転入者は67名増加いたしまして、転出者も70人減少しているところでございまして、現在のところ、55人の転出超過状態にとどまっている状況にございまして、施策の効果が少しずつではございますが、あらわれてきているものと考えております。

最後に、事業を進める上での課題とその対応についてお答えいたします。

これまでの助成事業の状況を見ますと、新婚家庭家賃助成事業申請者の93%及び住宅取得促進助成事業申請者の82%の方々が常陸太田地区への居住となっております。やはり買い物環境などの生活基盤が充実し、市外への通勤、通学の利便性の高い市の南部地域への人口が集まる傾向が見受けられまして、市内の他地域との差はあらわれている状況ではございます。

この地域間の差の解消に向けましては、各地域に存在します空き家等を活用した居住場所の提

供を進めるとともに、生活道路などのインフラや市内各所での居住環境の整備を強力に進めまして、利便性の向上を図ることなどによりまして格差の解消に努めてまいりたいと考えております。

また、定住促進に向けまして「子育て上手常陸太田」をキャッチフレーズとしてPRに努めているところでございますが、さらなる周知が必要と考えてございます。そのため、効果的な広報媒体及びさらなるメディアの活用を図るとともに、子育て上手常陸太田推進隊の皆様などの協力をいただきながら、市内外に向けた施策の浸透を図ってまいりたいと考えております。

少子化・人口減少対策アクションプランに掲げます人口5万人、出生数300人の目標達成に向けまして、今後におきましても、全ての施策が少子化・人口減少対策に通じるとの認識のもと、全庁一丸となり取り組んでまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 総務部長。

〔加瀬智明総務部長 登壇〕

○加瀬智明総務部長 第3セクターの経営についてのご質問にお答えをいたします。

1点目の本年9月までの上半期の経営状況についてのご質問にお答えをいたします。

始めに、常陸太田産業振興株式会社の本年9月までの経営状況につきましては、売上と収入が5,207万4,000円、売上原価並びに販売費及び一般管理費等の費用が5,195万8,000円で差し引き11万6,000円の黒字となっております。

水府振興公社につきましては、収入が9,784万1,000円、費用が9,196万9,000円で差し引き587万2,000円の黒字になってございます。

里美ふるさと振興公社につきましては、収入が1億4,053万3,000円、費用が1億7,250万円で差し引き3,196万7,000円の赤字になってございます。

前年度上半期と比較をいたしますと、収入が624万5,000円の減、費用が274万8,000円の減で差し引き赤字額が前年度より349万7,000円の増という状況でございます。

なお、里美ふるさと振興公社の赤字額が増加をした原因といたしましては、「ぬく森の湯」におきまして、入湯税の修正申告やそれに伴います延滞金、合わせまして1,540万円を費用化したこと。また、本来、社会保険に入るべき嘱託職員、パート職員を新たに社会保険に加入させたことから200万円の負担が生じたこと、さらに各施設への入り込み客が減少をしていることが挙げられます。このことから新たに1,000万円の借り入れをすることにより、当面の支払いに対応をしている状況にございます。

次に、2点目の市と第3セクターとの経営協議はどのような仕組みで行うのかのご質問にお答えをいたします。

市の定める指定管理者制度モニタリングマニュアルに基づきまして、毎月各施設から所管部署へ利用状況等の報告がなされておりますほか、常陸太田産業振興株式会社につきましては、月次の打ち合わせを行うとともに、今年度から新たに各第3セクターに担当職員を配置し、経営や運営について課題や疑問等が生じた場合には、その都度、現場に出向き協議するなど連携を密にしているところでございます。

さらに、里美ふるさと振興公社につきましては、経営健全化計画に基づき、4四半期ごとに公

社の収支状況や経営の進捗状況について報告を受け、これにより経営の健全化を進めておるところでございます。

次に、3点目の本年下期に向かったの課題と取り組み状況についてのご質問にお答えをいたします。常陸太田産業振興株式会社につきましては、さらなる利益の確保に向けまして、レストランや施設管理の作業内容の見直しなどによる人件費の適正配分や光熱水費の節約、売上原価の適正化などに取り組んでいくこととしております。

また、道の駅ひたちおおたの駅長が年度途中におきまして退職をいたしましたことに伴い、新たな駅長の人選という課題に対し、下期に向けて対応をしております。引き続き指定管理者でございます常陸太田産業振興株式会社と連携を密にし、道の駅ひたちおおたの魅力向上や誘客促進に取り組むとともに、健全な経営が図られるよう随時協議をしております。

水府振興公社につきましては、12月から来年3月まで「そばハウス龍亭」からカフェへのリニューアル工事の実施のため、水府観光物産館が休館をすることや水府物産センターの2階テラスの全面改修、ソバ加工場の設置や1階売店奥に授乳室及び多目的トイレを設置する工事が行われることから売り上げの減少が見込まれますが、工事の影響を最小限にとどめられるよう努めてまいります。

また、施設や部門ごとにグループ化をして改善策の提案などができる体制を整備したことにより、週1回の社員会議、月1回のパート主任会議を開催をし、部門ごとの課題や今後の取り組みについて話し合いをし、職員一丸となって経営改善に努めているところでございます。

里美ふるさと振興公社につきましては、飼料用米の生産に取り組んでいるふるさとファームにおいて、1,000万円程度の交付金による収益増が見込めるものの、「ぬく森の湯」において、これまで入浴料に計上していた金額の一部を入湯税に計上がえをしたこと。また、里美斎場における告別式の簡素化などにより売り上げの減少が見込まれております。

決算時点におきまして、中間決算と同額程度の赤字が想定をされておりますため、急遽、昨年度策定をいたしました経営健全化計画の見直しに着手をし、新たな対応策を検討しているところでございます。

最後になりますが、経営の立て直しが急務となっております里美ふるさと振興公社につきましては、総務課を中心といたしました経営健全化検討委員会を昨年度に組織をし、策定をいたしました健全化計画に基づき、現在、経営健全化に努めているところでございますが、常陸太田産業振興株式会社及び水府振興公社につきましても、総務課において経営分析等を行うなど、総括的に管理をし、所管課や第3セクター担当職員との連携を密にしながら、第3セクターの経営安定化に向け、市としての関与を強めてまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 平山議員。

〔8番 平山晶邦議員 質問者席へ〕

○8番（平山晶邦議員） 2回目の質問をいたします。第1の質問の少子化・人口減少対策については、1点目の実績について、新婚家庭家賃助成事業に544件の申請があったと、そして1,188人もこの対象となったということでございます。しかし、その中で市外からの転入

ということになりますと、575人ということは、約50%強の方が市内から転入しているという状況、また、住宅取得の促進助成事業につきましては、515件の申請があり、世帯人数が1,911人ですけれども、そのうち689人の市外と申しますと、約35%ぐらいに当たるんでしょうか。市外からは35%という形で、まだまだ市外から本市を目指して来ていただく方をぜひとも増やしていただきたいというふうなことを思います。

この1点目に関しては理解をいたしました。

2点目の今までの予算についても、約総額3億6,000万円近くの予算を使って、この少子化・人口減少対策に取り組んできたということも理解をいたしました。

3点目の事業を進める上での課題については、ご答弁にあったように、常陸太田地区と他地域との格差があらわれているということの認識がされていること。また、地域間格差の解消に向けて、努めていきたいという趣旨について理解をいたしました。ぜひ、その地域間格差、常陸太田の中での地域間格差の解消に向けては取り組んでいただきたいと。そして、そのためには、道路の整備などのインフラや居住環境の整備を進めて利便性の向上をぜひとも図っていただきたい。そうしませんと、何か若者だけに焦点が当たっていても、高齢者が地方で住みにくくなってしまったのでは、先ほど申し上げましたように、高齢者の方が外へ出ていってしまうという状況もございいますので、ぜひよろしくお願いをいたします。理解をいたしました。

そしてまた、ここで1つお伺いしたいことは、社会動態の現状を知る上で、転入や転出する際にアンケートなどを取って、そういうことをしているのかどうか。そして内容、動機などを分析して、少子化・人口減少対策に現在生かしているのかどうかについて伺います。

○益子慎哉議長 政策企画部長。

○綿引誠二政策企画部長 ただいまのご質問にお答えしたいと思います。

まず、社会動態の現状把握のためのアンケートでございしますが、こちらは平成23年度より転入転出の届け出をされた方に対しまして、市民課の窓口においてアンケートを実施しているところでございます。この目的といたしましては、当然転入転出をする際の目的についてアンケートを行っているわけございまして、その理由として大きなものにつきましては、就職や転勤などの勤務地が変わるような場合とか、さらには結婚を機にといったもので転入とか転出が行われている状況にございます。こういった状況を捉えまして、先ほど申し上げましたように道路などのインフラ整備、さらには結婚する新婚家庭に対する家賃助成などの経済的支援、こういったものを現在行っているところでございます。今後におきましても、この実態の把握に努めまして、より効果的な施策を展開してまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 理解をいたしました。私は、前段で申し上げましたように、町が持っている地域力が上がりませんと絶対的に少子化・人口減少対策の効果は出ないと考えております。常陸太田市の中での格差解消などに努めながら、ぜひとも、今後とも市民と事業の共有化を図り、事業の推進をよろしくお願いをいたします。

次に、第2の質問の第3セクターの経営について伺います。

1点目の上半期の経営状況は常陸太田産業振興株式会社が11万円の黒字、水府振興公社が587万円の黒字、里美ふるさと振興公社が3,196万円の赤字であるということは理解をいたしました。そしてまた、里美ふるさと振興公社は今までの負の整理をしている中での上期の経営状況であることも理解をいたしました。心配な点が1つございます。里美ふるさと振興公社は28年度決算の中で約3,000万円の短期借入れをしているというふうに思います。先ほど入湯税や社会保険等の加入で、新たに1,000万円の借入れを予定しているとのことですが、里美ふるさと振興公社の下期のキャッシュフローは問題ないのかについて伺います。

○益子慎哉議長 総務部長。

○加瀬智明総務部長 里美ふるさと振興公社の下期のキャッシュフローにつきましては、現金、預金等の流動資産が年々減少をしておりますことから、公社運営に当たっての最大の課題であることは認識をいたしております。現在の収支状況から判断をいたしましても、極めて厳しい状況にありますことから、今年度末におきましては、新たな資金調達の手段などを検討する必要性があると考えております。

○益子慎哉議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 私もここは新たな資金調達の方法をぜひ考えまさんと、決算に向かって大変厳しい状況を迎えるのではないかなというふうに考えておりますので、新たな資金調達の方法に関してよろしくお願いをいたします。

次に、里美ふるさと振興公社は今年度途中で経営者である理事さん方が変わったわけですが、以前の理事を務めていた方々や現在の理事を務めている方々はこの里美ふるさと振興公社がこのような状況であることは理解をしているのかどうか伺います。

○益子慎哉議長 総務部長。

○加瀬智明総務部長 以前の理事の皆様には、公社の財政がひっ迫をしたことにより、経営健全化計画を作るに至った経過におきまして認識をいただいております。現在の理事の皆様につきましても、計画の進捗状況の報告をしております。ご理解をいただいているものと認識をいたしております。

○益子慎哉議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 理解をいたしました。

2点目の第3セクターとの経営協議のあり方については理解をしたのですが、この中でも1つお伺いしておきます。

平成28年度の第1回の定例議会での私の第3セクターの質問に対して、そのご答弁で、市内の指定管理において健全経営がなされている施設との比較を行うというご答弁がございました。金砂郷地区でJA常陸が「金砂の湯」や「そば工房」、直売所の「こめ工房」など指定管理を受けて経営をしております。JA常陸には、市からの指定管理料は一切払われておりません。JA常陸のリスクで経営をしております。市内にそのような施設運営を行っている事業者がいるのですから、指定管理を受けている団体のそれぞれのよいところの経営方法などを学ぶべきであると考えますが、そういう28年度にご答弁があった比較や、そして研究なんかを現在行っているのか

について伺います。

○益子慎哉議長 総務部長。

○加瀬智明総務部長 指定管理者に関する研修等につきましては、過去の議会におきまして議員よりご質問をいただいておりますことは十分承知をいたしております。これまでは、各第3セクターの財務状況の洗い出し等を中心に行ってまいりました。今後は議員ご発言のありました類似施設の運営の比較や研修等を計画をしてみたいと考えております。

○益子慎哉議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） ぜひ、この下期に向かっては、そのような研究、研修ですか、そういうことを行っていただきたいと思います。理解をいたしました。

3点目の下期に向かっての課題と取り組みについては、常陸太田産業振興株式会社を経営している道の駅ひたちおおたの駅長さんが退職されましたが、その駅長人選は下期に対応していくということでございますから、理解をいたしました。水府振興公社、里美ふるさと振興公社は経営健全化が課題であるとの認識を持っていることが理解できました。ご答弁にあったように、第3セクターの経営安定化に向けて、ぜひとも、持続可能な施設であるよう取り組んでいただきたいと思います。

今回、私は少子化・人口減少対策についてと第3セクターの経営の質問をいたしました。この2つの問題は常陸太田市の将来に影響を及ぼして未来につながっていく問題であると考えています。少子化・人口減少対策で言えば、残念ではありますが、来年のこの12月議会を迎えるころは、本市は人口5万人を割って4万人台になっているのでしょうか。しかし、これからも東部地区の区画整理事業や新規住宅などの整備を含めて、さまざまな施策を考えているようでありますから、その施策効果に期待をしています。そしてまた、第3セクターの経営の問題は自主財源が乏しくなっていく本市の財政に影響する問題であります。市の関与を強めて、将来も安定した経営ができる施策であることを切に願っています。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。